

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述・計算・描図

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

広い分野から様々な形式の問題が出題された。論述問題の総字数がやや減少した。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空欄補充 記述 論述 計算	進化 代謝	生物 基礎 ・ 生物	問4 カ 1モルのグルコースから、呼吸では最大38モルのATPが得られ、アルコール発酵では2モルのATPが得られることから考える。	やや易
II	空欄補充 選択 論述 計算	遺伝子	生物	問5 子はXとX'のヘテロ接合体であり、タンパク質Aとタンパク質A'を同数作るので、4量体を構成するすべての分子がAである確率は $(1/2)^4 \times 100 = 6.25\%$ である。	標準
III	空欄補充 選択 記述 論述	植物の環境応答	生物	問5 オーキシンが下側に移動することが本文に記載されているので、高濃度のオーキシンが茎や根に与える作用に注目する。	標準
IV	空欄補充 選択 記述 論述 計算 描図	個体群	生物	問4(3) 固着生活を送るイワガキでは、標識個体と非標識個体が混じり合わない。 問6 グラフが [親世代の成虫数, 子世代の成虫数] = [0, 0], [200, 900], [700, 700] を通ることに注意する。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・知識問題については、教科書を中心とした基本的な学習と、標準的な問題の演習を行おう。
- ・例年様々な分野から出題される。今年度は出題されなかった、発生・恒常性・刺激と反応などの分野の学習もしておこう。
- ・出題頻度が高い、遺伝(遺伝計算)については、特に対策をしておこう。
- ・今年度は、昨年度に引き続き、制限字数がやや少なめ(30字~50字)の論述問題が多く出題された。例年、様々な制限字数の論述問題が出題されるので、多くの問題を練習しておこう。